

兵庫区会

ボランティア報告

独居高齢者安否友愛訪問

震災後にJR兵庫駅南側に誕生した瀟洒な高層住宅群キャナルタウンも、早や7年目を迎えて入居者の高齢化と、なかでも独居高齢者への対応が問題に成りつつあります。



友愛訪問中のメンバー

数年前から宮城さん(音文2期)は、この問題に親身になって取り組み、数名の仲間の方々と共に地味ではあるが、安否訪問の努力を続けられております。今日は宮城さん、室橋さん(生環4期)、佐藤さん(福祉1期)未亡人のお3方と友愛訪問に同行をさせて頂きました。

ローテーションは週1回程度で3、4名のチームで一日15世帯くらいを目どに訪問し、健康状態から日常の心配ごと、時には人生相談にいたるまで終始なごやかな雰囲気の中で会話を進めるよう常に心くばりを見せておられる様子でした。

この活動を続けていて一番喜びを感じる時は、お年寄りが元気なお顔



で、訪問を心待ちにしてくれていた時、反対につらい、悲しいなと思うときは、いつ訪問しても相手の方が留守の時や、体調不良の時に出くわした場合などだそうです。今後ますます急激にすすむ高齢者社会のなかで、独居高齢者の問題はますます重要な課題であると思われます。

問題意識を感じられた方々のこの活動への積極的な参加が切に望まれます。
(広報部竹田)

親睦・レクリエーション

「兵庫津の道」再発見

ここ数年来ちょっとしたブームの感がある「兵庫津の道」めぐりを、地元の私たちがこの目と足で今一度再確認をしようと、兵庫パンジーの会では親睦・レクリエーション担当の高田さん(生環5期)ほか12名が参加して、7月10日(木)親睦とウオーキングをかねて梅雨の晴れ間の1日を楽しく過ごしました。



兵庫の街は平安時代の昔から「大輪田泊」と呼ばれる良好な港のある街として知られており、平清盛の時



茅の輪でお祝い(柳原えびす)

代には中国・宗との貿易の拠点として港の大改修工事が行はれ、最盛期には一時福原に都が置かれるなど華やかな時代がありました。

その後兵庫の街は「兵庫津」と呼ばれ海陸要衝の地として室町時代には中国・明との交易、江戸時代には瀬戸内海有数の湊街として大いに賑わいました。明治には兵庫港が開港されるなど、昔から海陸交通の要所であった兵庫津は、幾度もの戦火・震災にあいましたが、まだまだ街角には多くの歴史を偲ぶ史跡や文化財が残されています。「兵庫津の道」は、これらを結ぶ道路の愛称として一般公募の中から選ばれたものです。

当日は「柳原えびす」の北角、旧西国街道の西側出入口に当たる柳原惣門跡を振出しに兵庫大仏で有名な能福寺、真光寺、清盛塚を経てキャナルプロムナードで昼食を取り、午後は清盛橋を経て後醍醐天皇ゆかりの薬仙寺などを訪れたあと、材木橋付近で往年の面影が残る運河周辺を散策、次回の「HAT神戸」探訪を楽しみに解散しました。(広報部竹田)

地域レポート

会下山ラジオ体操会



兵庫区のほぼ中央で神戸の市街と港湾を一望に見渡せる会下山で昭和33年以来、毎早朝続けられている会下山ラジオ体操会が7月21日で満45周年を迎えました。

この会は兵庫地区委員長の山中さん(福祉3期)が会長を務め会員は現在約200名で、兵庫パンジーの会員も多数参加しており、毎朝一寸したカレッジOBの情報交換の場となっています。

市内にはラジオ体操会が46会場、約2,800名が参加されて市民の健康に対する意識の高さを感じ取られます。会下身体操会では早朝体操だけではなく、ハイキング、バス旅行、新年会などを定期的に行い、心身ともに明るく楽しい、地域社会と市民生活の向上を参加者に呼びかけております。

会下山近くにお住まいの方々のご参加をお勧め致します。(広報部)